平成30年２月14日

各　　位

会 社 名　株 式 会 社 か ん な ん 丸
代表者名　代表取締役社長　佐藤　栄治
（コード番号　7585　東証 JASDAQ）
問合せ先　執行役員管理部長　宮永　一彦
（TEL　048-881-9056）

特別損失の計上、繰延税金資産の取崩し及び第２四半期（累計）業績予想と実績値との差異並びに通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成30年６月期第２四半期決算において、特別損失の計上及び繰延税金資産の取崩しを行いましたので下記のとおりお知らせいたします。また、平成29年８月14日に公表いたしました第２四半期（累計）業績予想との差異及び通期業績予想の修正につきましても、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．特別損失の計上

（１）連結

合計348百万円の特別損失を計上いたします。その内訳としては、減損損失302百万円、店舗閉鎖損失45百万円、固定資産除却損0百万円であり、主に不採算店舗の閉鎖を進めることに伴うものであります。

（２）個別

合計345百万円の特別損失を計上いたします。その内訳としては、減損損失299百万円、店舗閉鎖損失44百万円、固定資産除却損0百万円であります。

２．繰延税金資産の取崩し

当社における繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、当連結決算において繰延税金資産を取崩し、法人税等調整額25百万円を計上いたします。

３．業績予想との差異について

（１）連結

第２四半期累計期間連結業績予想との差異（平成29年７月１日～平成29年12月31日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	１株当たり当期純利益
前回予想（Ａ）	2,432	51	50	26	7円01銭
実績（Ｂ）	2,269	△38	△36	△415	△108円95銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△163	△90	△87	△441	―
増減率（％）	△6.7	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成29年６月期第２四半期）	2,545	33	36	15	4円01銭

通期連結業績予想の修正（平成29年７月１日～平成30年６月30日）　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回予想（Ａ）	4,672	27	24	6	１円68銭
今回修正予想（Ｂ）	4,231	△133	△131	△514	△134円94銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△440	△160	△155	△520	―
増減率（％）	△9.4	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成29年６月期）	4,905	35	40	△65	△17円20銭

（２）個別

第２四半期累計期間業績予想との差異（平成29年７月１日～平成29年12月31日）　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	１株当たり当期純利益
前回予想（Ａ）	2,417	48	25	６円63銭
実績（Ｂ）	2,253	△39	△413	△108円61銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△163	△87	△439	―
増減率（％）	△6.8	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成29年６月期第２四半期）	2,529	34	13	３円63銭

通期業績予想の修正（平成29年７月１日～平成30年６月30日）　（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回予想（Ａ）	4,641	20	2	０円70銭
今回修正予想（Ｂ）	4,211	△128	△511	△134円15銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△429	△148	△514	―
増減率（％）	△9.3	―	―	―
（ご参考）前期実績（平成29年６月期）	4,873	36	△69	△18円17銭

４．業績予想との差異及び修正の理由

当第２四半期連結累計期間における外食産業におきましては､好調な業種･業態も見られるものの、総合居酒屋業態を主に運営する当社においては、お客様の消費嗜好の多様化により、ご来店客数の減少に伴う売上高前年割れの基調を覆すことができずにおります。また、店舗運営においては、従業員の採用と確保のためのコストの増大、労働時間短縮に向けた取り組みも進めておりますが、食材価格の高騰も加わり経営を取り巻く環境はさらに厳しい状態となっております。

売上高につきましては、当社は計画よりも多額の広告宣伝費と販売促進費を投入し、その確保を試みましたが、上記影響に不採算店の閉鎖（２店舗）の影響も加わり、前回予想を163百万円下回りました。お客様のご飲食単価は微増で推移しましたが、既存店のご来店客数は前年比で△8.5ポイントと大きく下回りました。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少の影響が大きく、広告宣伝費、販売促進費、募集費の増加もあり、他の販売費及び一般管理費の圧縮を図ってまいりましたが、前回予想を下回りました。

親会社株主に帰属する当期純損失につきましては、上記営業損失、経常損失計上に加えて、特別損

失を 348 百万円計上したこと及び繰延税金資産の取崩しが影響し、前回予想を 441 百万円下回りました。

通期業績につきましては、３月４月の歓送迎会を中心とする宴会需要は見込めるものの、上期の状況及び下記決定事項を進めることを鑑み、さらに厳しい状況が想定されるため、下方修正するものであります。

ご来店客数の減少による営業損失計上を受け、業績回復のための経営改善計画を取り纏めるとともに、取締役会において店舗閉鎖を進める旨の決議を行いました。また、店舗閉鎖に伴い本社事務所の移転も行うこととし、管理面でもコスト圧縮を図ってまいります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上